阿弥陀さまをおがむ子どもを育てる

阿弥陀さまはいつでもどこでもそばにいてくださることを知る。

「ののさま、おはようございます」の声が、毎朝本堂の前で響きます。本堂と園舎は同じ境内地にあり、あいさつの後、すぐに園舎に入ることができます。親子で並び、それぞれに手を合わせてあいさつする姿があり、お母さんお父さんに抱っこされたりおんぶされたりしながらあいさつをする姿もあります。園バスで登園する子どもたちは、バスを降りると本堂の前にみんなが揃い、一緒にあいさつをします。園での一日は、いつでもこのあいさつから始まります。

お帰りの時には、「ののさま、さようなら」のあいさつをしてから家路につき、保育中園外に出かける時には、「ののさま、いってきます」、帰った時には「ののさま、ただいま」とあいさつをします。いつでも本堂にいらっしゃるののさま（みほとけさま）を心の中に意識しながら過ごしています。

ある日、園庭で遊んでいる時に転んで泣いている子がいました。近くにいた女の子が「どうしたの？　ののさまがみとられるから、だいじょうぶだよ」と声をかけている場面に出会いました。お参りの時に声に出す「奉讃文」の一節、「みほとけさま！　いつでもどこでもそばにいてくださって　ありがとうございます」の言葉を自分のものにしているのだな、と強く感じました。

こうして子どもたちが毎日過ごしている園舎ですが、老朽化のため、現在地から少し離れた場所に新築することになりました（この原稿が活字になるころには完成しているはずです）。そこで気になるのが、本堂との距離です。およそ３００メートルで、１歳児の子どもたちのお散歩コース内にありますが、それでも本堂とは離れます。もちろん新園舎のホールには、ご本尊阿弥陀さまのご絵像をご本山（本願寺）からお迎えしてご安置します。これからは、普段はホールの阿弥陀さまに向かってあいさつをすることになり、子どもたちは、これまであいさつをしてきた本堂の阿弥陀さまには、時々お参りする際にお会いすることとなります。でもきっと、いつでもどこでもそばにいてくださる阿弥陀さまを実感できる子どもたちですので、心配することはないのでしょう。

実は本堂も13年前に建て替えたのですが、私自身の幼児の時の体験から、「子どもたちに、阿弥陀さまの前で歌ったり踊ったりしてほしい」という強い思いがありました。そこで、お内陣をステージにするため、阿弥陀さまがいらっしゃる須弥壇（しゅみだん）の下にレールを敷き、後ろに下がっていただくようにしました。天井から下がっている飾りのものは、簡単に外せるようにもしました。こうしてステージとなったお内陣で、毎年子どもたちの発表会ができるようになりました。子どもたちは阿弥陀さまの存在を背中に感じながら、歌ったり踊ったり劇をしたりしています。阿弥陀さまと、とっても仲良しの子どもたちです。

（文章中、阿弥陀さま、ののさま、みほとけさまとありますが、みな同じご本尊さまのことです）

教育原理委員会　西谷正文

まことの保育の願い